



# かえでのもり

合志市立合志楓の森小学校  
学校だより 第5号  
令和3年(2021年)5月21日  
文責 校長 角田 賢治



ホームページ

## 令和3年度学校教育目標

# 「自分で考え 行動できる子ども」の育成

今年度の学校教育目標は「自分で考え 行動できる子ども」の育成としています。

世の中では、ロボットやAI、ビッグデータなど科学技術の進展が私たちの予想をはるかに超えたスピードで進み、社会構造も大きく変化しています。今までになかった新たな仕事やサービスが次々と生まれ、それにより私たちの生活も日々変化しています。それは、新型コロナウイルス感染症により生活様式が1年前には想像すらしなかったものに変化したことでも明らかです。数年後、子どもたちは、さらに変化の激しい社会が生きていくことが予想されます。

これまで通り「同じことが同じようにできる」「正解を求める」等の力は大事ですが、変化の激しい中では、今まで以上に、自分で考え、判断し、決定して行動できる力を身につけることが必要となります。指示されたことを適切にやりとげることのできる力は確かに大切な力の一つですが、それに慣れすぎてしまうと、指示されないと動けなくなってしまいます。

学校では、授業はもちろんのこと、学校行事や日常の学校生活の様々な場面で「自分で考え(よりよく) 行動できる」習慣をつけていく教育活動を行っていきたいと考えています。

【めざす学校像】 ○笑顔とあいさつがあふれる学校      ○安全・安心で一人一人の居場所がある学校  
○地域に開かれ信頼される学校

【めざす子ども像】 ○一人一人の違いやよさを認め合える子ども  
○自ら学び考え進んで行動できる子ども      ○健康でたくましい子ども

【めざす教職員像】 ○児童や保護者、地域に信頼される教職員      ○心身ともに健康で人間性豊かな教職員  
○柔軟な発想と学び続ける教職員

\*詳細は学校ホームページに掲載しています。

## 「人権は終わりのない学び舎」～小中合同研修～

19日(水)の放課後、小中学校の教職員合同研修を行いました。

講師として、菊池恵楓園長の箕田誠司先生(医学博士)をお招きして「ハンセン病の歴史と患者人権」と題した講話をしていただきました。講話では、「ハンセン病はどんな病気で、なぜ、差別されたのか?」「ハンセン病の歴史と国の対策はどのようなものだったのか?」「菊池医療刑務支所は、なぜ、設置されたのか?」「ハンセン病の偏見差別や人権侵害はどのようなものだったのか?」「ハンセン病問題から我々は何を学び、どう生かしていくべきなのか?」のテーマで約1時間でしたが、新たな多くの学びがある研修でした。最後に箕田先生から「無意識のうちに、お互いの人権を侵害しないよう、多様な人権、多様な価値観を一生学び続ける必要がある」とのメッセージがありました。

今後の教育活動に生かしていきたいと思っています。



【お詫びと訂正】前号(4号)のGIGAスクールの説明部分の「平成元年(2019年)」は「令和元年(2019年)」の誤りです。お詫びし訂正します。